

注目のアプライアンスが続々入荷!

アメリカン逸品堂



渡辺史敏

Photo: Kyoko Watanabe

アメリカでは、いまネットワークを活用したおもしろ製品がどんどん誕生している。そのなかには感動的な驚きの名品もあれば、「なんだこりゃ?」な迷品もある。ここアメリカン逸品堂では、毎月入荷する品々の中から店主厳選の逸品をご紹介します!

家庭のアンプを通してMP3音源が楽しめる!

MP3は圧縮されているとはいえ十分鑑賞に堪えられるし、これだけ普及しているのだから、どうせなら居間にあるステレオシステムやちゃんとしたスピーカーで聴きたいと考える人も多いのではないだろうか。もちろん、そんなニーズをアメリカの目ざといメーカーが見逃すはずはない。この「Digital Audio Receiver」はまさにそんなユーザーをターゲットにパソコンから離れた場所で、しかも高音質でMP3やウィンドウズメディアオーディオを楽しむためのアプライアンスだ。

この製品はあくまでもパソコンのHDDなど

に記録されたデータを専用サーバーソフトで呼び出して、パソコン以外のシステムで再生するための機械なのでメモリーは搭載していない。このため、ネットワーク機能は不可欠で、イーサネットのほか電話線を使ってLANを構築するHomePNAにも対応している。これなら屋内にいくつも電話口があるアメリカの家なら、新たに配線しなくてよい。もちろんこの場合はPC側にもHomePNA対応カードが必要になる。接続は簡単で、単にパソコンと本体をイーサネットケーブルか電話線でつなぐだけでよい。ハブを経由しても使える。

この製品の特徴はとにかく音声出力方式が充実していることだ。パソコンでよく使われるライン出力のほか、10ワットのパワーを持つ

スピーカーへの端子接続やアンプなどへのステレオケーブル接続などもできる。さらに前面のジャックもミニプラグではなく大型のヘッドフォンプラグを装備するという充実ぶりだ。

実際に使ってみると、確かに音質はいい。10Mbpsのイーサネット接続で試してみたがタイムラグや寸断もなく快適に楽しめる。ただ、音質の設定が低音と高音しかないというのは、この製品のターゲット層を考えるともう少し凝った作りにしてもよかったのでは思った。きっと、日本のメーカーが発売すると、このへんは違ったものになるだろう。

現在、Gatewayのほか数社が同様の製品を発売している。もしかしたらこれからこの手の製品が充実! なんてことが起こるのかも?

MP3を居間で聴くためのアプライアンス

Digital Audio Receiver



DATA

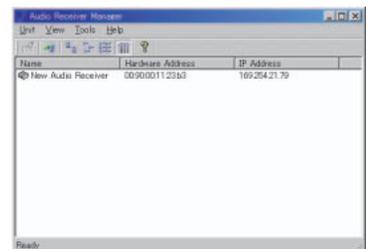
メーカー: Dell Computer Corp.

価格: 299ドル

www.dell.com/us/en/dhs/topics/center_tools_dac_tools_receiver.htm



特徴的な本体裏面のジャック群。HomePNA対応のため、電話線がささるようになっているが、モデム機能は内蔵されていない。



専用のサーバーソフトである「Audio Receiver Manager」の画面。接続されているDigital Audio ReceiverのIPアドレスなどが見える。音声データのインポートもこのソフトで行う。

着実に広がる
どこでもAOLの世界

AOLがGatewayとタッグを組んで開発したということで昨年春の発表以来なにかと話題になったAOL専用アプライアンスがこれ。

パソコンよりも少し小ぶりな箱を開けると液晶一体型の本体やキーボードとともに小さな部品がぞろぞろ出てきた。簡単さが売りのアプライアンスにしては面倒だと思ったら、そのほとんどがネジだった。普通に卓上に置くだけでなく、ネジ止めて棚などから吊り下げられるようになっているのだ。ただ、電源装置が一体化されておらず、コードの途中にノートPCのようなAC電源が付くので、取り回しにはちょっと苦労しそうだ。かなり小型ではあるが、実際に吊ることを考えると、少しシツメが甘いかなと思ったポイントだ。

サービス自体は“インスタントAOL”と呼ばれる専用のAOLを利用する。10インチの液晶画面にメール、インスタントメッセージ、チャットなどが並ぶメニューはAOLメンバーにとってはおなじみのもの。最新ニュースなどが掲載された“Welcome”スクリーンからウェ

GatewayとのタッグによるAOL専用アプライアンス

Connected Touch Pad

ブを含む各種サービスにアクセスしていくところも通常のAOLそのままだ。デザインもほとんど同じなのでAOLユーザーなら迷うことはない。なお、メニューまわりがシンプルになったほか、キーボードに各種サービスへ飛べるファンクションキーが付けられるなど、アプライアンスとしての使いやすさも考えられている。

以前この連載で、TVとの融合を図った“AOLTV”を紹介したが、AOLTVがあくまでTVとAOLを同時に利用するために、画面構成などをかなり変更していたのとは大きく異なる点だ。このあたりは利用コンセプトの違いが明確に出ていて興味深かった。

接続は56Kモデムが基本で、オプションによりDSLやCATVにも対応できるが、説明書には「オプション」のひとことしかない。また、ウェブではHomePNA2.0にも対応とあるが、こちらについてはまるで説明がない。こ

のへんが、いかにもアメリカンというか、わかる人だけやれぬ姿勢でちょっと不親切だ。

ちなみに、システムにはLinuxを採用しているが各種Linuxソフトが自由にインストールできるわけではないのでお間違えなきよう。



DATA

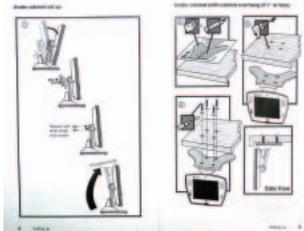
メーカー：Gateway, Inc.

価格：499ドル

www.gateway.com/consumer/connectedhome/



見慣れたAOLの画面がオリジナルに近い形で表示される。チャット、メールなどのレイアウトは若干変更されている。



取り扱い説明書には本体を吊り下げて設置するための解説がイラストで詳細に説明されている。



ひと足早くハヤリモノをcheck!

今月の早目・早耳

このWalkMateは一見すると車のリモコンキーのようにも見えるが、実際の機能はかなり違う。実はこれ、無線を利用した特定区域内を対象としたセキュリティーシステムの専用端末なのだ。

インターネットを通して端末利用者のモニタリングやデータの更新ができるため、利用者の位置が特定できるのはもちろん、ある区域外から利用者が出ようとしたときに端末にアラームを送ったり、逆に端末側のボタンを押してセンター側にアラームを送ったりすることもできる。

これにより子供や徘徊性のある老人の保護、企業の従業員管理、自動車の盗難防止や物流管理などに使うことが考えられているが、実際の導入事

例を聞いてちょっとびっくりしたものがある。それはサウスアラバマ大学などが女子学生に護身のために持たせたというものだ。

一般にアメリカの大学は日本よりも敷地が広い。緑深き広大なキャンパスに点在する各種の研究棟……と書くと思われた環境のように聞こえるが、必ずしもそうとはいえない。その広さが悪い方に利用され、レイプなど犯罪の場になることも多いのだ。

その対策がこのWalkMateというわけ。最新システムを生活に活用するいいアイデアだとは思うけれど、その背景を考えるとなんともいえない気持ちになってしまった。

女学生の護身もネットで!の時代は果たして...

WalkMate

www.walkmate.com



Microgestics社製。TDOA(Time Difference Of Arrival)方式により、5～10フィートの正確さで位置を特定できる。価格はシステムにより異なる。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp